

製品名: CtIP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09503**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	RBBP8
別名	RBBP8; CTIP; DNA endonuclease RBBP8; CtBP-interacting protein; CtIP; Retinoblastoma-binding protein 8; RBBP-8; Retinoblastoma-interacting protein and myosin-like; RIM; Sporulation in the absence of SPO11 protein 2 homolog; SAE2
遺伝子 ID	5932.0
SwissProt ID	Q99708
免疫原	抗血清はヒト RBBP8 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 630-679

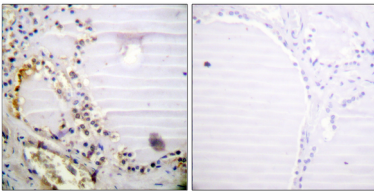
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、普遍的に発現する核タンパク質です。細胞増殖を制御する網膜芽細胞腫タンパク質に直接結合するいくつかのタンパク質の中に含まれています。このタンパク質は転写コリプレッサー CTBP と複合体を形成します。また、BRCA1とも関連しており、転写制御、DNA 修復、および/または細胞周期チェックポイント制御において BRCA1 の機能を調節すると考えられています。この遺伝子自体が、BRCA1と同じ経路で作用する腫瘍抑制因子である可能性が示唆されています。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする3つの転写バリエーションが見つかっています。さらに多くの転写バリエーションが存在しますが、それらの全長は未だ解明されていません。[RefSeq 提供、2008年7月],機能: 転写制御、DNA 修復、および/または細胞周期チェックポイント制御において BRCA1 の機能を調節する可能性があります。 ,PTM: DNA 損傷時に、おそらく ATM または ATR によってリン酸化されます。電離放射線による過剰リン酸化は BRCA1 からの解離を引き起こす。 ,PTM:ユビキチン化; SIAH1 によって媒介され、その後プロテアソームによる分解を引き起こす。 ,細胞内局在:主に核内。 ,サブユニット:CTBP、BRCA1 の C 末端 (BRCT) ドメイン、および網膜芽細胞腫タンパク質と相互作用する。 ,

研究分野

-

画像データ



RBBP8 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト甲状腺組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。